

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ザ・ビースト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.650	△RG	0.015	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ザ・ビースト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

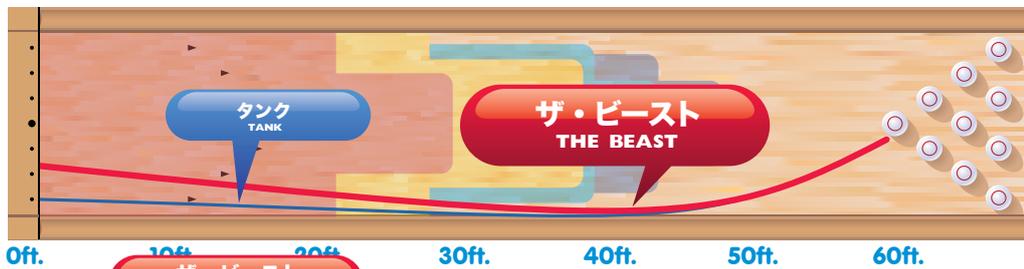
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：タンク

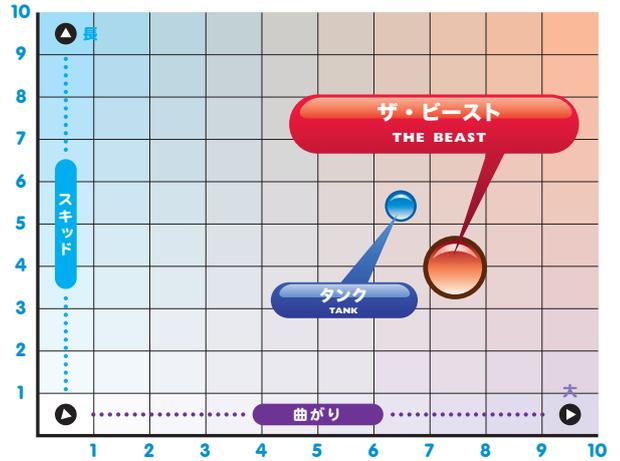
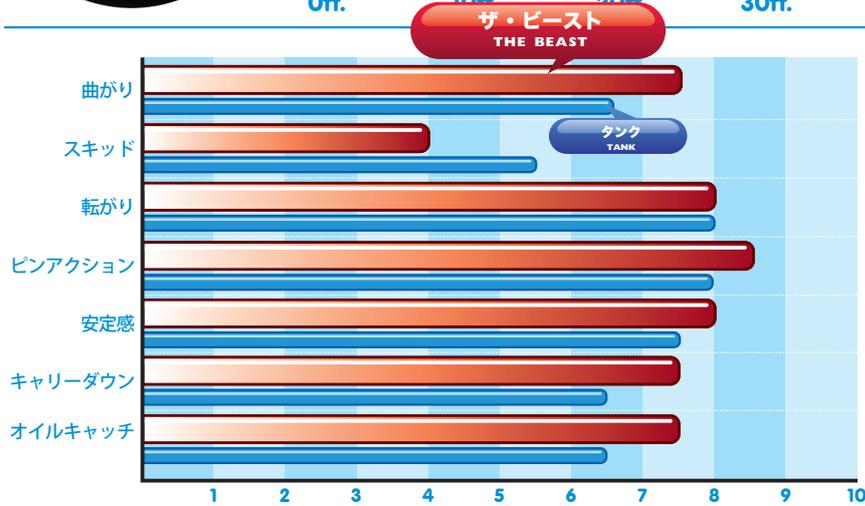
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レールコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

現在のコンディション事情は数年前と比べ、かなりスポーティーな傾向の色が濃く見え始めました。今までのようにただ単位オイルの量を多くするだけでなく、オイルの高低差の段差を少なくすると同時にオイルの質までも組み合わせながらポケットまでの投球幅が狭くなってきています。これは日進月歩のボール開発事情がコンディションを凌駕していることも同時に表していることでもあり、投球者自らの技量とボールとのマッチング、コンディションを読み取る能力を今まで以上に問われていることが伺われます。高性能になった現在のリアクティブ素材はオイルのユニットが多くなった時に絶大なる恩恵をもらたすのと同時に、ショートなコンディションではその高性能がオーバーアクションとして牙をむきます。その状況を打破するためにウレタン素材の再リリースに至ったのが経緯といえるでしょう。Columbia社は今回、現在のウレタン素材を用いたリメイクされたTHE BEASTの発売です。

Columbia社では実に2012年6月ぶりにウレタン素材の発売になります。

テストした感想ではウレタン素材の中ではかなりキャッチが前面にでる性能だと思います。表面の最終加工がそうさせているのですが、コンディションが遅くなってから使用するイメージよりは、手前のオイルはまだ多いが先での急激な摩擦が欲しくないときにTHE BEASTは重宝します。ウレタン素材特有の持続的なキャッチがピンヒットまで続くため、オイルが切れたドライゾーンで一気摩擦が増えてオーバーアクションが少ないためにラインが読みやすくなるでしょう。ひと昔のウレタン素材とは違い、ピンアクションも決して淡泊とはいえないアクションが期待できます。定期的にウレタン素材を購入する人が増えています。

トーナメントに出て、あらゆるコンディションに対応するのであれば、このTHE BEASTは欠かせないでしょう。

特記事項

ややキャッチ系のウレタン素材のTHE BEAST。そのまま使用しフレッシュなショートコンディションに使うもよし。磨いて遅めのコンディションに使うもよし。様々な用途で使用して頂けると幸いです。